



皆さんの身近にある、女性活躍推進に取り組む企業をご紹介します。

## えるぼし認定



一定の基準を満たし、**女性の活躍促進**に関する状況などが優良な企業を認定する厚生労働省の制度です。認定を受けると、認定マークを表示することができ、企業のイメージアップを図ることができます。また、国の機関等の公共調達において優遇措置を受けることや日本政策金融公庫による融資制度を利用することができます。

**株式会社丹野設備工業所**は市内に本社を置く企業として初めて「**えるぼし認定**」を取得し、女性が能力を発揮しやすい職場環境の整備に努めています。

### ◆株式会社丹野設備工業所 代表取締役 丹野 徳人氏へのインタビュー

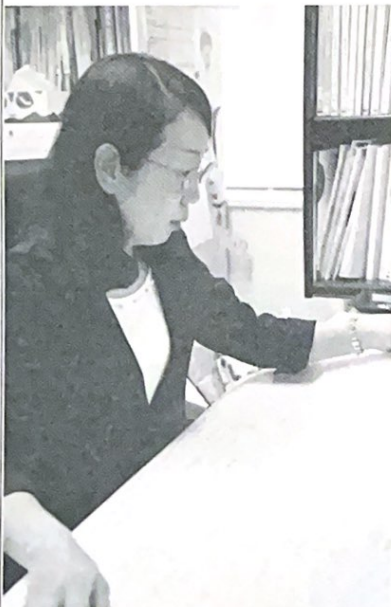
当社は、水と空気に関する建設業です。元々建設業は女性が少ない、いわゆる男性社会です。「男女が揃い、平等に仕事ができる環境の整備・仕組み作りをしなければ」と思ったことが女性活躍推進に取り組むきっかけです。「ものづくりがしたい」「人々の生活を支えたい」という強い志をもつ57人が働いており、一人一人が大切な存在です。

今いる女性従業員たちは、施工管理や現場監督を担当する者もいますが、設計や総務を担当してもらうことが多いです。子育てと両立できるよう、時間をフレキシブルに対応し、業務の振り分けをしています。

ものづくりをしていると、許認可を受けなければなりません。書類を整える業務の得意な女性が多く、従業員の得意分野を生かす配置をしています。設計でも、住居の水回りで「ここにこういうものがあると便利。」というアイデアは、女性から出てくることが多いです。



### ◆工事部設計課係長 小川 佳代氏へのインタビュー



神奈川県立西部総合職業技術校からの紹介で入社しました。

以前は、子どもを3人育てる専業主婦でした。末子が2歳のとき正社員の仕事を探しましたが、資格も技術もない為、見つかりませんでした。そこで、技術校でCAD(コンピューターを用いた設計)を学び入社する事が出来ました。担当は、工事・給排水に関する書類・図面の作成です。また、家事の合間をみて勉強し仕事に関わる様々な資格を取得しています。

幸い子どもが健康なので、急に休むことは少ないですが、必要なときには休みを取ることができます。学童や子ども食堂など、たくさんの方に支えて頂きながらフルタイムで勤務しています。コロナの影響で休校になったときには、とても困りましたが相談役(代表取締役 丹野氏の母)にテレワークできないか相談したところ、すぐに代表へ話をし下り対応してもらえたので、とても助かりました。仕事や家庭で困った事があると相談役に聞いて頂くことが多いです。相談役は子育てしながら仕事してきた女性であることもあって話しやすいです。

夫は出張があり不在にすることがありますが、できることを自ら行ってくれます。掃除や洗いは機械に任せています。子どもたちも手伝ってくれるので、みんなで上手く回せていると思います。

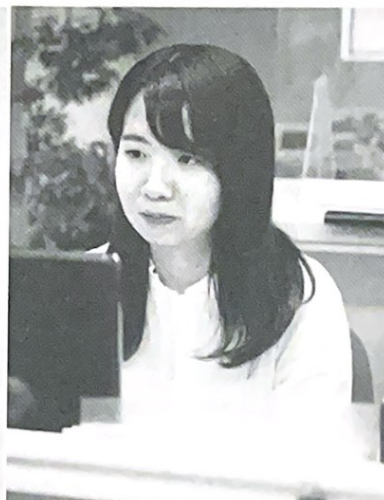
裏面に続く

## ◆総務部主任補 廣石 遥氏へのインタビュー

短期大学を卒業しましたが、在学中にインターンシップをさせてもらったことが入社のかっけです。現在は、総務担当として勤怠管理、求人活動、技術職のサポートなどを行っています。仕事をしていてやりがいを感じることは、部署関係なくコミュニケーションをとりながら業務を進めていくことです。また社内だけでなく、求人活動等で学生や社外の人とかかわることも多く、自分の知識や経験を広げられることも魅力に感じています。

ももとは人前で話すことが得意ではありませんでしたが、今では年間300人ほどの学生に対してプレゼンを行えるほど成長できたことが、自分自身の糧となっています。

社内でも女性の事務職の割合が多いですが、助け合いの風潮があり、安心して業務をすすめることができているところが魅力だと思っています。



## 「我が家の家事・育児分担を考えるワークショップ」報告

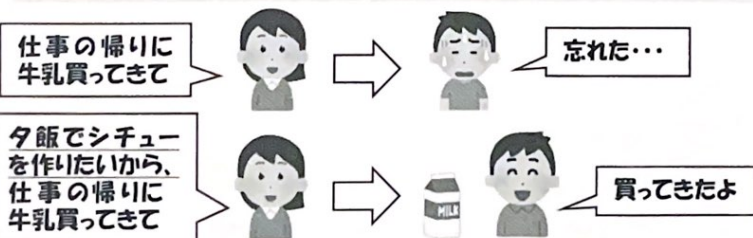
(令和4年6月26日開催 講師 伊勢原市男女共同参画推進委員会 委員長 和田 優氏)

円滑な家庭生活を送るため、夫婦の家事分担について考えるワークショップを開催しました。働き方改革で夫の労働時間が減ったからといって、その減った時間が自動的に家事・育児時間に変換されるほど簡単ではありません。

- 各家庭でどのような家事・育児があるのか棚卸しすることが必要。
- 特に男性は家事内容に対して無頓着だったり、作業を理解していなかったりすることもあるので、どんな家事・育児があるのか見える化してみる。

また、生まれつきの脳の性差についても紹介しました。

例えば、お使いを頼むときも目的を伝えながら話すとうの頭に残りやすい。



どちらかというとうは「問題解決型」の脳を使うことが多く、具体的な理由を示しながら、要点を論理的に話すのが、夫の意識をつかむポイントです。

## 「家事分担リスト」をご活用ください！

主要な家事や育児などをあらかじめ記載したシートとご自由に記入いただけるシートを、右の2次元コード・URLからダウンロードできます。各家庭の状況に合わせ、ぜひご活用ください。

<https://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2018092500078/>



編集 伊勢原市男女共同参画推進委員会  
編集部会

発行 伊勢原市人権・広聴相談課  
人権・男女共同参画推進係  
伊勢原市田中 348  
電話:0463-94-4716(直通)  
FAX:0463-92-9009  
E-mail: jinken@isehara-city.jp

### 【編集後記】

今回の作成で令和2年8月に委員に就任したメンバーで行う最後の発行となります。

今まで携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。

次回からは、新メンバーでの作品となります。これから「気づき、ためになる」をモットーに発行を行っていきます。皆様お楽しみに！